

令和6年度 県立三田西陵高等学校 学校評価（目標と評価方法及び評価結果）

1 スクール・ミッション、スクール・ポリシー

【スクール・ミッション】 「自主 創造 飛翔」の理念のもと、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を備え、夢の実現力に富み、持続可能な社会の創り手として、たくましく豊かな人生を切り拓くことのできる人材を育成する。
【スクール・ポリシー（三つの方針）】 育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー） ① 自分の考えをしっかりと持ち、他者の意見を尊重しながらも自らが下した決定を行動に移すことができる生徒を育成する。 自主 ② 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決法でもって探究していくことができる生徒を育成する。 創造 ③ 自分の目指す方向を見失わず、仲間と一緒に知恵を出し合い課題を解決していくことができる生徒を育成する。 飛翔 ④ 自身の成長のために進んで学ぼうとする、学びに向かう力のある生徒を育成する。 ⑤ 生命を尊重し、自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育てる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー） ① 生徒の興味・関心や進路希望に対応した、特色ある学校設定科目や専門科目を設定する。 ② 学び方の基礎・基本の定着を図るため、少人数授業の充実を図る。 ③ 実験・実習を充実させる等、生徒が主役の実践的で体験的な学びを展開する。 ④ ICTを効果的に活用した、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を図る。 ⑤ 大学や外部機関と連携し、高度な知識や技術を活用した探究的な学びに取り組む。
入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー） ① 学校の全ての教育活動に主体的に取り組む、向上心を持った生徒を募集する。 ② 何事にも一生懸命に取り組む、互いに輝きを認めあうことのできる生徒を募集する。 ③ 夢の実現に向けて、仲間と共に、果敢に取り組む生徒を募集する。

2 学校経営の重点

(1) 夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」を育成する。 ア 生徒が夢や希望を持ち、将来の目標を適正に定められるよう、体系的・組織的なキャリア教育及び進路指導のさらなる充実を図る。 イ 生徒の基本的な生活習慣、基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を図る。 ウ 将来の進路目標を実現し、社会で活躍し貢献できる人づくりを進めるため、生きて働く知識・技能の確実な習得に加え、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を育成し、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力を育成する。
(2) 生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育む。 ア 体験活動を通して自ら学び、考え、体得する教育に力を入れ、時代を越えて変わらない倫理観や公共心の育成など心の教育の充実を図るとともに豊かな人間性等を涵養する。 イ 校内の緑化や花いっぱい運動、美化に励む伝統を継承し、本校の恵まれた学習環境の中で、生徒の豊かな情操を養う。 ウ 生命の尊さや、他を思いやる心を育て、防災・安全教育を充実させる。
(3) 保護者・地域等との連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりを進める。 ア 生徒の地域社会の活動への参加及び地域住民の本校教育活動への参加等、開かれた学校づくりを積極的に進め、家庭・地域社会と互いに連携しながら、いきいきとした魅力ある教育活動を展開する。 イ 自主自律の精神に富む人づくりに努め、明朗・闊達な精神と文化を尊ぶ校風の継承と発展を図るとともに、時代の進展や社会環境の変化に対応した学校づくりに取り組む。
(4) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実を図る。 ア 本校のスクール・ミッションの実現をめざし、各教職員が学校組織の一員として一人ひとりの専門性、個性を生かしながら、緊密に連携・協力してそれぞれの課題に取り組む。 イ 生徒の主体的な学びを支援する伴奏者として、生徒一人一人の学びを最大限に引き出し、個別最適な学びと協働的な学びが実現できる質の高い教職員集団であるために、学校単位をはじめ、個々の教員においても主体的・自律的な研修の取組を推進するとともに、職員間で共有化を図る。

3 総合的な自己評価及び次年度に向けた改善点

(1) 授業について、65%以上の生徒がICT機器を効果的に活用した授業を受けることができていると回答しているが、一方1～2年生では25%以上の生徒が否定的である。全学年にBYOD導入となり、教員は研修を進めより一層効果的な活用を図りながら、生徒の学びの意欲を引き出す工夫が必要となっている。 また、75%の生徒が授業内容に興味がわき、集中して授業を受けることができている、80%の生徒が大半の科目において授業内容が理解できていると回答している。全ての生徒が夢の実現をするために必要な「確かな学力」の育成をめざし、さらに授業改善に取り組む。 (2) 「総合的な探究の時間」を軸にして、進路講演会やホームルーム等でキャリア教育に取組んだ結果、70%の生徒が自分の進路を考える上で役立っていると回答しているが、40%の生徒が進路目標達成に向けてスタディサプリや模試等のツールを十分に活用できていないと回答していることが課題である。生徒が主体的に3年間を見通したキャリア形成を図れるよう、組織的・体系的なキャリア教育を進めていくことが必要である。 (3) 子どもみらい類型の取組では、「県立高校魅力アップ推進事業」「高校生ふるさと貢献・活性化事業」等で計画していた内容を概ね予定どおり実施できた。 連携幼稚園・保育園、地域活動協議会、自治会等の支援・協力を得ながら、教育現場体験、芋掘り交流会やブックカフェ等を通じた園児や地域の方々との交流、各種ボランティア活動への参加により、生徒の主体的な学びを深めることができた。また、1年生、部活動部員、環境委員、花緑委員が中心となり、花いっぱい運動や地域ボランティア清掃に参加し、地域や社会への意識を涵養するきっかけとなった。 (4) 高大連携については、生徒の学びを深め、専門的な見地から探究学習を行えるよう令和4年度よりプロジェクトチームを立ち上げ、実施してきた。2年生の「総合的な探究」の時間において、連携協定を締結する大学から教員を派遣いただき分野別に講座を開講した。各講座では大学教員の専門的な指導・助言を得ながら、本校教員がファシリテーターとして担当し、大学教員と連携を図りながら探究学習を実施した。生徒の評判もよく今後もこの取り組みを進め、より深化させていく。

4 学校関係者評価総括

(1) 学校生活は楽しいと85%の生徒が回答しており、教員が行っている日々の教育活動が、生徒への安心・安全に過ごせる場所を提供できていることの現れと思う。しかし、一方で学習面では進路目標達成に向けて学校で用意したツールが十分に活用できていないことに対して、改善が必要である。 (2) スクールカウンセラーに関しては、教育相談体制の認知度が生徒64%と低い。困ったときに行くところではなく、困ったことが起こる前に行けるところ、という位置づけをとりより多くの生徒が相談できる、カウンセラーの顔が見られるような取り組みをお願いしたい。 (3) 子どもみらい類型の取り組みや評価は、現場の人間からすると大変励みになる。園での実習時間が短く感じる、実習時間を半日から1日と長く取り、子どもの成長や先生方の頑張りを見られるように実施できないか。高校で幼児教育に対する「意識」を持った生徒たちが、大学教育や実習を通し次世代を担う人材へと育てて欲しい。

5 重点目標別自己評価結果

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(1) 夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」を育成する。	①生徒による、自らが学び、育つ学校地域の健全で健やかな環境整備に向けて取り組む。【総務部】	①花緑委員会、各部、学年、部活動組織と連携できたか。県市と連携できたか。その他校内外の感想はどうか。【総務部】	A	学校内、校外について花緑委員会が中心となり、春秋の二度花壇に花を植えました。また花を植えたプランタを地域のコミュニティ・センターに届け、学校や地域の住環境の向上に努めた。【総務部】
	②学力の3要素の習得を目指し、各教科の学習活動を行う。BYODを活用することで、双方向授業や個別学習の最適化を目指し、生徒が主体的に課題を発見・解決する深い学びにつなげる。【教務・特色推進部】	②公開授業週間などを通じて、教員間でBYOD端末の活用方法を助言し合う。生徒への授業アンケートの各項目評価が90%以上。【教務・特色推進部】	B	授業アンケートの集計結果、ほとんどの項目で90%以上を達成することができている。BYOD端末の活用方法について、公開授業週間以外のときは個人間での情報共有に留まっているため、全体で共有する場をさらに設けたい。【教務・特色推進部】
	③学校設定教科「教育」・学校設定科目「教育入門」「教育の探究」「教育体験」、総合的な探究の時間「教職の探究」を設置し、外部講師による教育講話、創作活動、教育現場体験（実習）など授業内容の充実を図る。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	③子どもに関わる進路（教育系など）への希望者60%以上を目指す。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	B	1年生の「総合的な探究の時間」は子どもみらい類型において「教職の探究」として実施した。また教育現場体験（インターンシップ）では11名の生徒が夏季休業中に30時間以上の実習を経験した。カリキュラムの変更に伴い、評価も含めた計画を必要とする。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】
	④生徒指導の観点から、充実した学校生活を過ごすことで社会を生き抜く確かな力を身につけさせる。【生徒指導部】	④生徒アンケートにおける「学校生活は楽しい」85%以上。【生徒指導部】	A	各種行事や日常生活に関する生徒アンケートの結果、概ね目標の数値を達成している。「学校生活は楽しい」と85%の生徒が答えており、多くの生徒が充実した学校生活を送っている。【生徒指導部】
	⑤確かな学力を習得するためにも、心身が健全であることが肝要であることを自覚させ、充実した学校生活を過ごせるよう支援していく。【生徒指導部（保健担当）】	⑤生徒アンケートにおいて「学校生活は充実している」85%以上。【生徒指導部（保健担当）】	A	生徒アンケートにおいて 84%の生徒が「学校生活が楽しい」と回答するなど、多数の生徒が元気に学校生活を送ることができている。【生徒指導部（保健担当）】
	⑥基本的な知識・技能・学力を身に付ける。補習・資格取得・外部と連携した事業・校内での諸活動を充実させ、自分の意志で参加し、自分が達成したという自信を持たせる。【進路指導部】	⑥諸活動を精選し、内容は生徒にとって充実したものであったか。生徒自身が自分から加わり達成したという満足感を持ったか。達成できていない生徒に対して、どのような指導があるのか考えられたか。【進路指導部】	B	各学年長期休業中の補習が実施できた。3年生においては、英語においてGTEC・英検含め多くの生徒が資格を習得した。【進路指導部】
	⑦小テストを実施したり、各教科で課題を実施し、基礎・基本の徹底を図り、家庭学習の習慣化につなげる。模試の結果等を踏まえて、生徒の実情を把握し、それぞれの課題を確認、克服のためのフィードバックをスタサブなどを活用し行った。【1学年】	⑦小テストの合格基準を設定し、クリア状況を確認。各教科で振り返りを行い、志望校偏差値のBライン到達を目標とする。スタサブの動画視聴および確認問題への取組状況を確認し、各教科の考查平均の変動率を確認する。【1学年】	B	小テストでは不合格者に対して再テストも実施したが、学習に対する自主性の向上につながっているかという点、課題が残る。スタサブによる動画や課題配信等を行ったが、利用状況はのびず、現状結果に結びつくまでには至っておらず、活用方法の見直しや生徒への声掛けを継続的に実施していく必要がある。【1学年】
	⑧授業に対して主体的に取り組めるよう、予習→授業→復習のサイクルを意識して定着させる。毎週の小テスト（英・国・数）、週末課題に誠実に取り組む。長期休暇中の補習など、実施について生徒への周知徹底を図り、積極的に活用させる。【2学年】	⑧小テストでの合格率の年度当初からの向上を目指す。各学期のアンケートにおける学習時間2時間以上の割合の向上を目指す。実力テストにおいて年度当初からの向上を目指す【2学年】	B	小テストの合格率は、年度当初からさほど変化が見られなかった。意欲のある生徒は継続して高得点を維持しているが、小テストへの意識の低い生徒への働きかけに課題を感じた。補習に関しては、塾などで対応している生徒もいたこともあり予想より少なかった。実力テストにおいては7月に比べて11月の国数英3教科総合で微増したが、これからも継続して意欲的に取り組む姿勢を維持することが課題である。【2学年】
	⑨授業に対しての主体的な取り組みを促す。毎週の小テスト（英・国）、週末課題に誠実に取り組む。補習を積極的に活用し、進路希望の実現につなげる。【3学年】	⑨授業アンケートでの「積極的な参加」80%以上を目指す。小テストでの合格率の向上を目指す。【3学年】	B	補習への参加率は低めではあったが、部活動を引退した夏からは向上し、進路実現に向け努力する生徒が大幅に増えた。【3学年】

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(2) 生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育成	①他者と協働しながら行動し、また自己の安全や周囲の安心感の醸成に努める。防災および人権。【総務部】	①各部、学年、部活動組織と連携できたか。県市と連携できたか。その他校内外の感想はどうか。【総務部】	A A	消防署と連携して防災訓練に取組み、生徒の防災意識の向上を図る取組を行った。また、三田市の防災担当部署と連携して地域の災害への関心を高めた。 人権意識の涵養の視点で今日的な若者の問題「SNS」について考える機会を持つことで、一人一人が注意しなければならないことに注意を促した。多様化する種々の問題を掘り起こし、解決の方向性を提示することが今後必要である。【総務部】
	②教育現場体験などを通して対人関係（人間力）を構築する環境を設定する。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	②連携幼稚園・保育園の園長や教諭、保育士からの講評・感想を評価に資する。地域活動協議会からの講評・感想を評価に資する。実施回数やアンケートなどにより評価する。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	A	受け入れ実習園での評価は良く、継続していきたい。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】
	③生徒会役員を中心に学校行事を運営し、生徒が主体的に学校行事に取り組めるようにする。行事を通して自己および他者に対する肯定的な態度を養う。【生徒指導部】	③ 学校行事を生徒自らが率先して取り組めているか。他者と協力して行えているか。【生徒指導部】	A	西陵祭では文化の部、体育の部ともに大いに盛り上がり、クラスの絆が深まっていた。文化の部では生徒会企画として全校生徒が折り紙を折り、それを中庭の上空に飾るなど、生徒発案の装飾が文化祭をより良いものとしてくれた。【生徒指導部】
	④引き続き、必要に応じた感染症対策を行うとともに、日頃の学校生活においても、熱中症対策や体調管理に留意するよう啓発活動をおこなっていく。【生徒指導部（保健担当）】	④保健委員による活動ができたか。生徒が個人および集団の命を守り、健康意識の向上を図れたか。【生徒指導部（保健担当）】	A	保健委員で、トイレのハンドソープの補充や換気の呼びかけなどの活動を行った。今年度もインフルエンザが流行するなどしたため、引き続き感染症対策は行っていく必要がある。【生徒指導部（保健担当）】
	⑤進路実現は各個人の「生き方の問題」であるという視点で、自分の将来像を描かせ可能性をさぐる。自己理解を深めるため、「様々な経験」「様々な進路情報」「様々な可能性」を図れる指導を行う。【進路指導部】	⑤生徒との対話がよくできているか。外部の方々による講演など、学校関係にとらわれない広い分野からの知識・関心が得られるように取り組めたか。【進路指導部】	A	各学年ともに定期的に面談を実施し、生徒との関係は密である。必要に応じ三者面談も実施されていた。【進路指導部】
	⑥総合的な探究の時間や人権 HR 等において、自己や他者を大切にする態度を育成する。【1 学年】	⑥アンケートや振り返り学習等を活用し、生徒の意識の変化を確認する。【1 学年】	A	総合的な探究の時間や人権 HR において、他者の視点に立って考えるとともに、グループワークを通じて他者を大切にする態度が育成された。SNS を通じた他者との関わりについて考える機会を設けた。【1 学年】
	⑦先住民族や自然環境など、北海道独自の文化について学び、多くの体験を通して生徒の目を多方面に向けさせる機会とする。【2 学年】	⑦人権 HR 実施後のアンケート等を通して、生徒の学びや人権意識を確認する。【2 学年】	A	修学旅行実施前にアイヌ民族の文化と歴史についての人権HRを学年全体で行い、修学旅行を通じた人権意識の向上を図った。修学旅行では「北海道開拓の村」や「ウポポイ」を見学した。人権講演会では、スマホやSNS の危険性についての理解が深まった。【2 学年】
	⑧人権 HR などを通して、他者に対して思いやりを持って接する態度を育成する。学校行事に全力で取り組むことで、学校生活を充実させ、自己肯定感を高める。【3 学年】	⑧人権 HR 実施後のアンケートや感想文で、生徒の学びを確認する。事後アンケートにおいて取り組む姿勢や行事を通じた学びを確認する。【3 学年】	A	人権HRでは拉致問題について学習し、多くの生徒が他者に対する思いやりの必要性や、人権意識が高まったと答えた。学校行事には、どのクラスも全力で取り組み、生徒の生き生きとした表情がとても印象的であった。【3 学年】

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(3)保護者・地域などとの連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりの推進	①他者の視点に立ちながらよりよい社会の在り方について考えようとする。社会参加の姿勢を養う。【総務部】	①花緑委員会、各部、学年、部活動組織と連携できたか。県市と連携できたか。その他校内外の感想はどうか。【総務部】	A	花緑委員会の取組は地域に潤いを与える視点からも相応の評価を得ている。生徒自身が花を届ける行為によって本校生の姿が地域に肯定的に受け止められた。学校周辺の清掃活動に取り組み、社会の一員として、住環境の向上を考え実践した。好評であり、地域からの期待感が伝わった。【総務部】
	②教育現場体験（実習）や就業体験、交流会を充実させ、連携幼稚園・保育園との関わりを深める。地域活動協議会との連携を図り、地域連携講座を開講し自治会創作展への出展や学童保育などへの参加機会を増やす。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	②連携幼稚園・保育園の園長や教諭、保育士からの講評・感想を評価に資する。地域活動協議会からの講評・感想を評価に資する。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	A	連携幼稚園・保育園との玉ねぎ収穫、芋掘り交流を実施した。また、地域自治会のサークルとの交流を通じて創作展への出品を行った。特に校内農園の収穫物の一部を、地域活動協議会主催の子ども食堂へ寄付を行った。次年度以降も継続する。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】
	③生徒会活動を通じて、地域の方々との交流を深め、各種学校行事に保護者・自治会などの参画を促す。【生徒指導部】	③ボランティアなどを通して地域交流ができたか。学校行事では保護者はもちろん、自治会などにも参画を促せたか。【生徒指導部】	B	学校としては徐々に地域とのつながりを作ることができてきたが、今後は生徒会としても地域とのつながりをもっとうまく活用していきたい。【生徒指導部】
	④保健便りやカウンセリングルーム便りを発行し、生徒のみならず保護者とも連携を図っていく。【生徒指導部（保健担当）】	④生徒や保護者に教育相談体制を周知することができたか、学校評価アンケートなどにより評価する。【生徒指導部（保健担当）】	B	アンケートにおいて、「悩み等を相談できるキャンパスカウンセリングなどの教育相談体制を知っている」と回答したのは、生徒は 64%、保護者は 54%であった。もう少し周知できるように情報発信が必要である。【生徒指導部（保健担当）】
	⑤進路情報を詳細に提供する。地域や社会が求めている人材とは何かを考えさせる。【進路指導部】	⑤保護者・地域に対し進路情報などの提供が効果的にできたか。地域の求める青年のあり方を把握し、指導に活用できたか。【進路指導部】	B	学年懇談会や三者面談時に進路に関する情報提供を行った。地域に対しての情報提供に課題がある。【進路指導部】
	⑥学年や学校における活動を学年通信で発信し、本校の取組についての理解を図る。ラクメを活用し、保護者への各種情報提供を行う【1学年】	⑥学年通信を最低でも月1回発行する。Google classroomやラクメを活用し、定期的な情報配信を行う。【1学年】	B	学年通信については月1回のペースで発行することができた。今年度から導入したラクメの活用については、まだまだ定着できておらず、活用頻度の向上をしていかなければならないと感じた。【1学年】
	⑦保護者対象修学旅行説明会等を通して、修学旅行の実施について、保護者への周知徹底を図り、理解と協力を求める。学年通信等を通じて、本校の取り組みに対する理解を図る。【2学年】	⑦夏季休業中に実施する三者面談等において、保護者と情報共有を行う。学年通信を最低月1回発行する。【2学年】	A	修学旅行について担当から丁寧に説明することができた。また、夏季休業中の三者面談においても情報共有できた。その結果、多くの生徒・保護者が修学旅行を理解し、修学旅行の成功につながった。学年通信についても月1回の発行し、情報提供を行った。【2学年】
	⑧定期的に学年通信を発行することで、生徒・保護者・学校相互の理解を図る。進路実現に向けて二者面談・三者面談を計画的に実施する。【3学年】	⑧面談を通して、生徒や保護者との情報共有を図り、生徒の自立および自律につなげる。【3学年】	A	3学年になってから学年通信を6回発行し、生徒・保護者への情報の周知を図ることができた。夏の三者面談に加え、私大出願に向け12月、また国公立大学出願に向けて1月にも三者面談を実施し、生徒の納得のいく進路選択ができるよう配慮することができた。【3学年】

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(4) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実	①防災避難計画の立案、安全点検。実施委員会組織、学年、部との連携に努める。課題確認。【総務部】	①各部、学年、部活動組織と連携できたか。県市と連携できたか。その他校内外の感想はどうか。【総務部】	A	地域の地理的特性を考慮して社会生活を送ることの重要性、自助、共助の精神を考える機会とした。今後とも防災に関する取組の実践が必要である。【総務部】
	②ICT 機器の活用研修会・具体的な事例の提示・ICT 機器の有効活用教科横断的な授業参観と研修会・生徒のキャリア形成に応じた授業についての検討【教務・特色推進部】	②事例や有効活用の提示（年４回） 他教科への授業参観（１回以上）【教務・特色推進部】	B A	全学年がタブレットを持つ状況でより先進的の取り組みが必要であったが、教科に関わらず活用できる方法を幅広く提示していく必要がある。 秋の公開授業週間を利用し、教科を横断した授業見学を実施した。幅広い教授法を身に付けるために今後も続けて実施していく。【教務・特色推進部】
	③「教育入門」の指導方針と年間計画、「総合的な探究の時間（教職の探究）」の取組方針を、年度当初に教職員へ配布し説明を行う。教育講話や創作活動の実施について、適宜職員向けに案内する。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	③班別協議や課題研究発表会の見学、参加を評価に資する。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】	A	年度当初に取組についての冊子を教職員に配布できた。外部講師や交流会の案内等、外部との連携を密にできた。【教務・特色推進部（子どもみらい担当）】
	④変化の激しい時代にあって、多様な考え方が社会に存在する中で、多様な視点を身につけるための各種研修・会議を充実させる。【生徒指導部】	④研修や拡大生徒指導部会を通し、教員に求められる生徒指導の観点からの考え方を共有する。【生徒指導部】	B	教員の共通理解は図れていたが、研修はなかなか思うように実施できなかった。【生徒指導部】
	⑤配慮を要する生徒の共通理解を着実に行うとともに、教職員向けのカウンセリングマインド研修などを通じて、教職員の資質向上を図っていく。【生徒指導部（保健担当）】	⑤定期的に保健安全・特別支援委員会を実施する（年８回）教職員向けのカウンセリングマインド研修により、教職員の資質を向上させる。（８月に実施）【生徒指導部（保健担当）】	A	定期的に保健安全・特別支援委員会を実施するとともに、学期ごとに全教員で配慮を要する生徒等の共通理解を図ることができた。また、カウンセリングマインド研修などにより、教員の資質向上の機会となった。【生徒指導部（保健担当）】
	⑥学年が行う実態に応じた指導を重視しつつ、全体としての進路指導計画を完成させる。３年間を見通した進路指導計画を完成させる。【進路指導部】	⑥進路指導計画が立てられ、有効に実施できているか。成果を校内で共有できたか。【進路指導部】	A	進路指導計画にもとづき、３年間を見通した進路指導が概ね実施できた。【進路指導部】
	⑦学年会議等において情報交換をおこない、学年が抱える課題とその解決方法について議論を交わす。BYOD の更なる活用に向けて、学年会議でもteamsを活用し、情報交換がスムーズに行えるような環境をつくる。【１学年】	⑦週１回の頻度で学年会議を開き、学年の課題について素早い対応をおこなう。学年団でteamsを活用し、タブレットを用いて、全員がいつでも情報を確認できるようにする。【１学年】	A	週１回の学年会議を通じて、学年全体で生徒情報を共有し対応することができた。Teamsを積極的に活用することができれば、業務改善にも繋がると思うので、今後も継続して実施していきたい。【１学年】
	⑧西陵祭文化の部・体育の部等において、中心的な役割を担う。部活動や委員会活動において中心的な役割を果たし、学校に活気を与える存在となるよう意識させる。【２学年】	⑧週１回の学年会議を通じて、生徒の情報共有や学年の活動について議論を深める。学期ごとに各行事に対するアンケートを行い、生徒の取り組み状況を確認する。【２学年】	A	西陵祭文化の部において全クラスが模擬店に取り組み、生徒の充実度も非常に高かった。体育の部において、２年生が総合準優勝を果たし、大いに行事を盛り上げることができた。【２学年】
	⑨定期的に進路検討会を実施し、個々の生徒への進路指導を、担任だけでなく学年全体及び進路指導部と協力して綿密に実施する。毎朝、毎週の学年会を通じて、生徒の共通理解を図り、きめ細かな指導を継続して行う。【３学年】	⑨進路検討会、学年会の実施回数などを評価に資する。また生徒に実施する卒業前アンケートにおいて、本校の進路指導について確認する。【３学年】	A	１学期期末考査時、２学期期末考査時、また共通テスト終了後と３回進路指導部と合同で進路検討会を実施した。３学年発足直前の４月にも学年内で検討会を実施し、学年団全員で生徒の進路に関する共通理解を深めた。【３学年】